



スペイン各地での  
エピソード①

## 市民との交流で 語学実践

海外留学では、クラスでの勉強のみならず、居住する町での人々との交流や各地を旅行することも、より生活を充実し広げてくれます。学んでいる外国語の、生きた実践の場ともなります。ここからはスペイン各地で見、感じ、遭遇したエピソードの一端をご紹介します。

マドリード、セゴビア、トレド、ミハス、グラナダ、セビリア、ジブラルタル、バルセロナの順の予定です。



南スペイン地中海岸のトレモリーノスに居を定め、生活も落ち着いてきた5月末、妻とM夫妻の4人でマドリードとセゴビアを訪ねました。マラガ駅から乗った

特急「タルゴ」は一路、マドリードに向かって北上。沿線の両側にオリーブやひまわり畑が広がっています。そしてあちこちに「白い村」が点在しています。日本のスペイン観光案内書では白い村というと、コスタ・デル・ソルのミハスを取り上げていることが多いのですが、こちらに来てみるとどこに行っても白い村だらけです。

途中のコルドバで列車にまつわる面白い体験をしました。駅の少し手前で停車した列車から放送がありました。「ここからレールが狭軌になります。車輪の幅を調整するため少しお待ちください。窓から車両の外を覗きましたが何も見えません。列車はゆっくりと走行。走りに合わせて、レールと車輪とで自動的に調整されていくようです。後日、その仕組みをマラガ駅で聞きました。説明によると、「フランコ独裁の時代

に、外国から敵が鉄道で乗り込んで来られないように、北のヨーロッパのレール幅とは異なる広軌のレールを作った。今は再び共通になるよう順次、統一しつつある。だがコルドバまではまだ広軌なので、列車が特殊なモーター（器械）の上を通過していくと、自動的に車輪の幅が狭軌に調整されるようになっていく。復路も同原理で今度は狭軌から広軌へ。ちなみにマラガからコルドバまでのレール幅は1.665m、それ以降のマドリード方面は1.435mになっている」との

ことでした。かくしてコルドバでは、セビリアから来る列車とレールを共有します。セビリアーマドリード間には、世界に知られた特急「AVE」が走っています。1992年、セビリアで開催された万博に合わせて開発設置され、最高時速250キロといいますが、速度もさることながら、ゆったりとした車両内とシート、それにスチュワーデスのような制服を着た女性乗務員の対応が、なんとなく旅の雰囲気を高めてくれるようでした。

私たちの乗ったタルゴも特急ですが、AVEのような速さも華やかさもありません。時速200キロ近くのスピードでマドリードに到着しました。アトーチャ駅。屋根が驚くほど高く野性的です。スペインの南方面から来る列車が発着、近郊線や地下鉄と連結しています。構内には植物園と間違ふような熱帯植物の茂る一角がありました。私たちは駅を出ると、そのまま歩いてプラド美術館に向かいました。

## プラド美術館 教科書で馴染みの作品がいっぱい

マドリード観光の目玉の一つはプラド美術館です。世界の三大美術館の一つとして、所蔵絵画は8000点、展示作品だけでも3000点を超えているといえます。エル・グレコ、ベラスケス、ゴヤに代表される12～18世紀のスペイン絵画のほか、王室の趣向を反映したイタリヤ派絵画、フランス絵画、オランダ絵画、ドイツ絵画などもあり、展示ホールは天井も高く開放感があります。館内の広さと作品の多さは圧巻です。しかも、どれも大作で、日本の学校の教科書や美術関係の図書に紹介されている作品も多いのです。年間の訪問者は約200万人。日本語のガイドブックも置いてあります。歴史的な作品が、ガラスで覆われているのでもなく、手を伸ばせば届くところにあります。驚いたのはフラッシュなしの写真撮影が許可されていることでした。日本の美術館では作品の管理もはるかに厳重で、写真撮影も禁止されていることが多いからです。

残念ながら、皆がお目当てにしていたマハの絵は、「裸」「着衣」ともになく、アメリカの美術館に貸し出し中とのことでした。

清水武 Takeshi Shimizu 旅行作家  
世界文学紀行を定年後のライフワ  
ークに作品の舞台を訪ねている。  
東京都・昭島市在住  
<http://homepage2.nifty.com/donky/>

